

漢字工房

随筆の味わい No.1

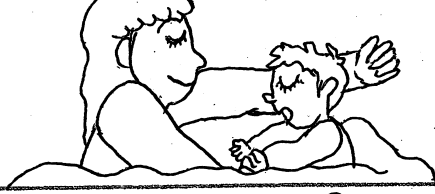
2年 P77

まくらもと
枕元 →



ね び まくら
寝ている人の枕のあたり。

うで まくら
腕枕 →



じぶん うで まくら
自分の腕を枕のかわりになること。

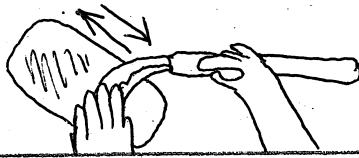
かま くら じ だい
鎌倉時代 →



みなもと の 頼朝
源頼朝

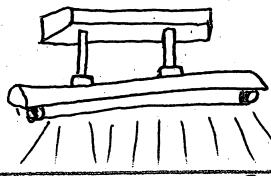
みなもと の 頼朝 ばくふ くら
源頼朝が幕府を開いてから150年間の称。

かま と
鎌を研ぐ →



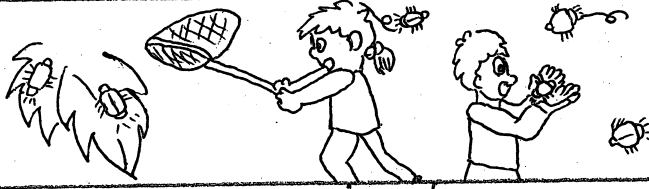
かま 草など を 切る 道具 の 鎌 と いし すべい
を砥石で研ぐこと。

けい こう とう
蛍光灯 →



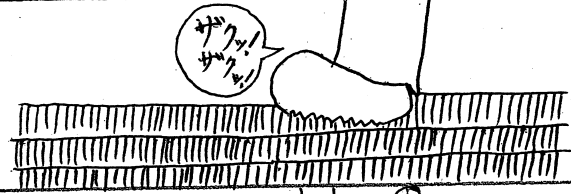
かん うちがわ ひか
ガラス管の内側を光らせて照明する電灯。

ほたる が
蛍狩り →



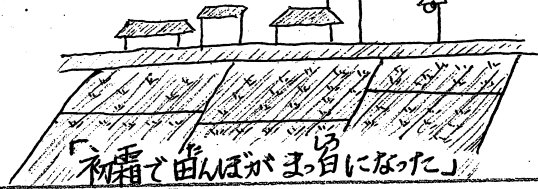
ほたる と
蛍を捕るあそび。

しも ばしら
霜柱 →



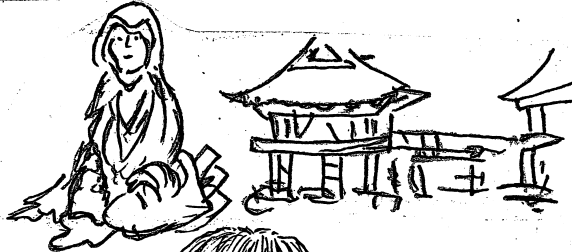
い ぶ ち つ な か ちひさ
寒い冬に、土の中の水分が地表にしみ出てきて凍結し、細い柱状群になった。

はつ しも
初霜 →



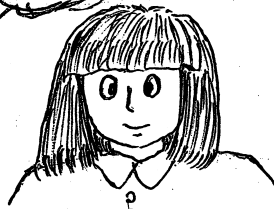
ふゆ はじ
その冬になって初めの霜。

あま でら
尼寺 →



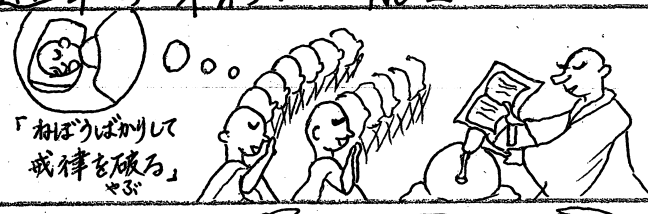
あま す たら
尼の住む寺
(女のおほけ)

あま
尼そぎ →



じょせい かみ かつ
女性の髪を肩のあたりまで切り揃えること。

かい りつ
戒 律 →



しゅうきょう
宗教における
せいかつきりつ
生活規律。

いまし
戒 め →



おし
教えごととして、
しんま
慎ま
せる。

随筆の味ゆい No1
漢字テスト

月 日 ()

点

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①

漢^{かん}字^じを^よ読^よんでみよう

尼そぎ	尼寺	初霜	霜柱	蛍狩り	蛍光灯	鎌を研ぐ	鎌倉時代	腕枕	枕元
-----	----	----	----	-----	-----	------	------	----	----

随筆の味わい No.1
漢字テスト

月 日 ()

点

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
そ ギ				り		を く			

かんじ 漢字 を書いてみよう

そ ギ				り		を く			

